

12/8 鮎福

# 大阪と旭川に 看護師派遣へ

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、政府は七日、医療体制が逼迫する大阪府や北海道旭川市に、自衛隊の看護師計十数人を派遣する方向で最終調整を始めた。感染の「第三波」を迎えたとも言われ、各地で医療現場の人手や病床の不足が深刻化。全国知事会も派遺の調整に当たるが、感染拡大のペースに追いついていない。政府は医療体制の支援拡充を急ぐ。

大阪府の吉村洋文知事は七日、記者団に「岸信夫防衛相に（医療従事者の派遣

## 政府調整 自衛隊の十数人

を）要請した」と述べた。同日記者会見した旭川市の西川将人市長は、自衛隊の看護師十人の派遣を要請するよう道に求めたとし「危機的状況にあると受け止めてほしい」と述べた。道は近く国に要請する。

吉村知事によると、大阪府は数人、旭川市は十人程度で調整している。看護師の派遣は、自衛隊法が定める「災害派遣」として実施される。

菅義偉首相は七日の政府与党連絡会議で「自治体から要請があれば、直ちに

派遣できる態勢を整えている」と発言。加藤勝信官房長官も会見で「要請があり次第、速やかに派遣すべく準備している」と述べた。

旭川市では医療機関で相次いでクラスターが発生。病院として国内最大のクラスターとなつた旭川厚生病院では七日時点で計二百三十七人、慶友会吉田病院では計百八十七人の感染者が出ている。同市ではこれまで四十人が死亡。市内の新型コロナ患者用病床は約六割が埋まっている。

12月25日

# 病院の悲鳴 離職相次ぐ

## 自衛隊看護師派遣へ

新型コロナウイルス感染で深刻な状況が続く大阪府や北海道に自衛隊の看護師が派遣される見通しとなった。地域では感染のリスクや高い業務負担を背景に離職が相次ぎ、コロナ対応に加え、一般医療の提供にも厳しさが増す。感染者が比較的少ない県も支援を出だす余裕は乏しく、自衛隊が形勢逆転の決め手になるとも限らない情勢だ。

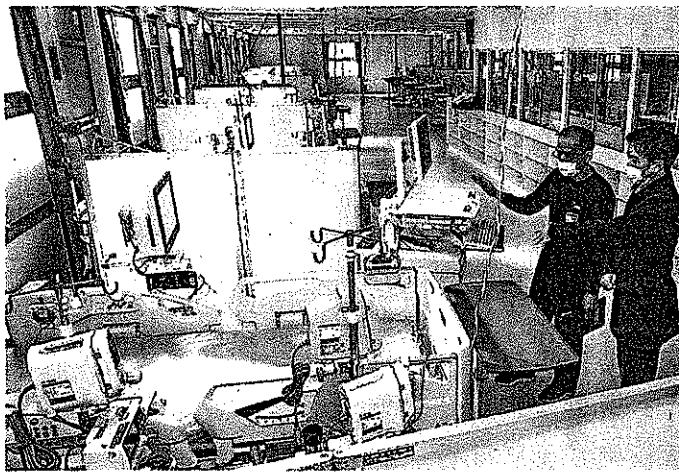
〔●面参考照〕

▽ありゆる手段

「(病床が)非常に逼迫している。あらゆる手段をやっている。あらゆる手段をやっていきたい」。大阪府の吉村洋文知事は七日、記者団に語った。

府内では確保した重症者用病床のうち、他の病氣やけがで使っているものを除いた病床の使用率は九割に迫る。患者数がベッド数を上回る「医療崩壊」を避けるため、重症専用の臨時施設を十五日から稼働させる考えだが、看護師不足が解消できていなかつた。

北海道旭川市でも病院で大規模なクラスター(感染者集団)が相次ぎ発生。病院は先月末には派遣を求めていたが、道の市の足並みが乱れて速やかに要請ができず、事態の悪化を招いた。



「大阪コロナ重症センター」を視察する大阪府の吉村洋文知事(7日午前、大阪市) (代表撮影)

## 病棟閉鎖など一般医療に影響

大阪では人手不足が深刻だ。五月、全国に先駆け中止してしまった。大阪府の吉村洋文知事は七日、記者団に語った。

府内では確保した重症者用病床のうち、他の病氣やけがで使っているものを除いた病床の使用率は九割に迫る。患者数がベッド数を上回る「医療崩壊」を避けるため、重症専用の臨時施設を十五日から稼働させる考えだが、看護師不足が解消できていなかつた。

北海道旭川市でも病院で大規模なクラスター(感染者集団)が相次ぎ発生。病院は先月末には派遣を求めていたが、道の市の足並みが乱れて速やかに要請ができず、事態の悪化を招いた。

▽負荷

大阪では人手不足が深刻だ。五月、全国に先駆け中止してしまった。

▽余力

大阪では人手不足が深刻だ。五月、全国に先駆け中止してしまった。大阪府の吉村洋文知事は七日、記者団に語った。

受け入れは六十床を上限にせざるを得ない。

心理的負荷も高い。感染の恐怖と隣り合せで、家族につながり、よつとホテルで暮らす看護師も。森坂佳代子看護部長は「コロナがなければ続けてくれた人も多いと思う」と顔を曇らせる。

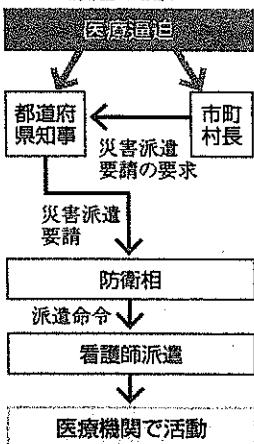
コロナ以外の医療にも既に悪影響が出ている。市立総合医療センターでは産科病棟などに続き、十二月七日に若年がん患者の専用病棟を一時閉鎖。看護師十五人を十三市民病院などでの感染者対応に振り向いた。全国でも先進的だった若いがん患者の就学、就労など社会的課題への支援継続が難しくなり、がん患者団体からは懸念の声が上がり始めた。

慢性的な人手不足にコロナ対応が拍車を掛け、負担がさらに増す悪循環。高橋

等症患者の専門病院となつた大阪市立十三市民病院では医師十人、看護師十人超が離職した。

背景にあるのが負担の重さだ。防護服姿での作業は熱がこもるため汗で体力が奪われ、作業もしづらくなれる。患者は七十歳以上が七割以上を占め、寝たきりや認知症の人もいる。排せつや食事、移動の介助、室内の清掃もこなす現場からは「看護外の業務が増えてしま

### 自衛隊看護師派遣の流れ



弘枝村看護協会会長は「新規一人の看護師が担当でき患者数は限られ、夜勤などのシフト調整が厳しい。整備した九十床のうち患者受け入れは六十床を上限にせざるを得ない。

府は全国知事会などにも派遺要請を出し、複数の県が応じる姿勢だ。ただ派遺する側の余力も十分ではない。看護師一人の派遺を表明した和歌山県の幹部は「重症患者を診る際、二床に十五人の看護師が必要だ。そこから一人取られるだけでも痛手。県内では高齢患者が多く重症も増えている。軽症や無症状の人もいつ重症に轉じるか分からず、このままでは何時も困る」と説明する。

こうした中、頼みの綱とされた防衛省幹部は「要請は当然想定していた」と腹をくくる。集団感染が発生したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」に派遣された際、隊員から感染者が出なかつたとして評価も高い。だが幹部は「人数は限られ、劇的に状況を改善させられるわけではない」とときを刺した。